

3. 機種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種 の 選 定

作業種別	機械名	規 格	単位	数量	摘 要
掘削 床掘 切崩	機械施工	バックホウ 排出ガス対策型（第2次基準値）・ クローラ型 山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	台	1	
		ブルドーザ 排出ガス対策型（第1次基準値） 普通 15 t 級	〃	1	
	岩石掘削 （機械）	大型ブレーカ 油圧式 1,300 kg 級	〃	1	
積 込 み	バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値）・ クローラ型 山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	〃	1	ダンプトラック使用時に適用
運 搬	ダンプトラック	10 t 積級	〃	1	土運搬作業の機種選定は、表 3.2 を標準とする
	ブルドーザ	排出ガス対策型（第1次基準値） 普通 15 t 級	〃	1	
埋戻し・敷均し	バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値）・ クローラ型 山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	〃	1	
	ブルドーザ	排出ガス対策型（第1次基準値） 普通 15 t 級	〃	1	

（注）現場条件により、上表により難しい場合は、別途考慮する。

表3.2 土運搬作業の機種選定

運搬距離	標準工法
60m以下	ブルドーザが標準
60mを超える	バックホウ+ダンプトラックが標準

（注）上表により難しい場合は、別途計上する。

4. 施 工 歩 掛

（1）土量の表示

すべて地山土量で表示する。

ただし、施工土量（地山土量）をほぐし土量及び締固め後の土量の状態に換算する場合は、「第Ⅱ編第1章土工①土量変化率等」の土量換算係数 f を乗じて算出する。

4-1 バックホウの作業能力

運転1日当り土工量は、次表を標準とする。

表4.1 日当り施工量

（1日当り）

作業の種類	土質名	単位	数 量	
			障害なし	障害あり
地 山 の 掘 削 積 込	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	m ³	198	144
	岩塊玉石	〃	162	108
ルーズな状態の 積 込 み	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	〃	216	
	岩塊玉石	〃	180	
	破碎岩	〃	144	

（注）1. 作業範囲は、機械走行面より上下に5m以内を標準とする。

2. 地山の掘削積込（現場条件の内容）

障害なし：作業現場が広い、作業範囲が標準内及び転石の混入等の影響による作業妨害が少なく、連続した掘削作業が出来る場合。

障害あり：作業現場が狭い、作業範囲が標準外及び転石の混入等の影響による作業妨害が多く、連続した掘削作業が困難な場合。

3. 破碎岩（中硬岩以上）の積込みは、機械損料の割増を行う。岩石作業の補正は、+0.25 とする。

4. ルーズな状態の積込みは、締固めを伴わない埋戻作業に適用出来る。

3. 機種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種 の 選 定

作業種別	機械名	規 格	単位	数量	摘 要
掘削 床掘 切崩	機械施工	バックホウ 排出ガス対策型（第2次基準値）・ クローラ型 山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	台	1	
		ブルドーザ 排出ガス対策型（第1次基準値） 普通 15 t 級	〃	1	
	岩石掘削 （機械）	大型ブレーカ 油圧式 1,300 kg 級	〃	1	
積 込 み	バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値）・ クローラ型 山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	〃	1	ダンプトラック使用時に適用
運 搬	ダンプトラック	10 t 積級	〃	1	土運搬作業の機種選定は、表 3.2 を標準とする
	ブルドーザ	排出ガス対策型（第1次基準値） 普通 15 t 級	〃	1	
埋 戻 し ・ 敷 均 し	バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値）・ クローラ型 山積 0.8 m ³ （平積 0.6 m ³ ）	〃	1	
	ブルドーザ	排出ガス対策型（第1次基準値） 普通 15 t 級	〃	1	

（注）現場条件により、上表により難しい場合は、別途考慮する。

表3.2 土運搬作業の機種選定

運 搬 距 離	標 準 工 法
60m以下	ブルドーザが標準
60mを超える	バックホウ+ダンプトラックが標準

（注）上表により難しい場合は、別途計上する。

4. 施 工 歩 掛

（1）土量の表示

すべて地山土量で表示する。

ただし、施工土量（地山土量）をほぐし土量及び締固め後の土量の状態に換算する場合は、「第Ⅱ編第1章土工①土量変化率等」の土量換算係数 f を乗じて算出する。

4-1 バックホウの作業能力

運転1日当り土工量は、次表を標準とする。

表4.1 日当り施工量

（1日当り）

作業の種類	土 質 名	単位	数 量	
			障害なし	障害あり
地 山 の 掘 削 積 込	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	m ³	176	128
	岩塊玉石	〃	144	96
ルーズな状態の 積 込 み	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	〃	196	
	岩塊玉石	〃	160	
	破碎岩	〃	128	

（注）1. 作業範囲は、機械走行面より上下に5m以内を標準とする。

2. 地山の掘削積込（現場条件の内容）

障害なし：作業現場が広い、作業範囲が標準内及び転石の混入等の影響による作業妨害が少なく、連続した掘削作業が出来る場合。

障害あり：作業現場が狭い、作業範囲が標準外及び転石の混入等の影響による作業妨害が多く、連続した掘削作業が困難な場合。

3. 破碎岩（中硬岩以上）の積込みは、機械損料の割増を行う。岩石作業の補正は、+0.25 とする。

4. ルーズな状態の積込みは、締固めを伴わない埋戻作業に適用出来る。